平成２０年３月　発行　社団法人　東京都建築士事務所協会　　監修　東京都建築構造行政連絡会

鉄骨構造標準図（2）

※修正箇所は下線を引くこと

3．継手規準図，その他

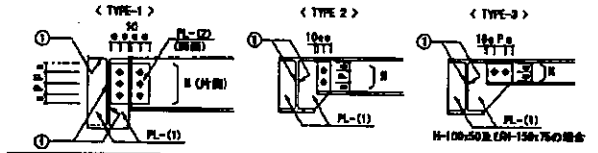
（1）ボルトピッチ（P）　ボルト穴径・最小縁端距離

(mm)

呼び	ボルト穴径	最小縁端距離（a） (1)	(2)	(3)	(2)/(3)の値	ピッチ（P） 最小	最大
M16	18	40	28	22	40	40	90
M20	22	50	34	26	45	50	90
M22	24	55	38	28	45	55	90
M24	26	60	44	32	45	60	70
M27	32		49	36			
M30	36		54	40			
M34 以上	呼び＋5		9d/5	4d/3		アンカーボルト径（d）	

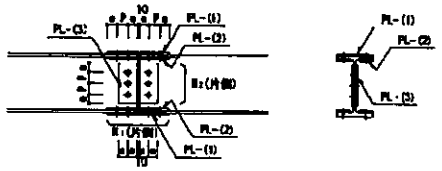
（注）(1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが1本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

（2）ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部材	PL-(1)	PL-(2)	H－径
	3	H－125・60・6・8	6		2－M16
	3	H－150・75・6・7	6		2－M16
	2	H－175・90・5・8	6		2－M16
	2	H－200・100・5.5・8	6		2－M16
	2	H－250・125・6・9	6		3－M16
	2	H－300・150・6.5・9	9		3－M20
	2	H－350・175・7・11	9		4－M20
	1	H－350・175・7・11	9	6	4－M20
	2	H－400・200・8・13	9		5－M20
	1	H－400・200・8・13	9	9	4－M20

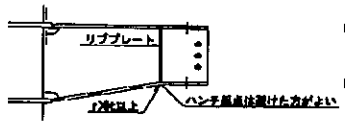
（3）剛接合梁継手リスト　(BCSS-1997による)



（注）端部を限とする場合の部材は設計図による

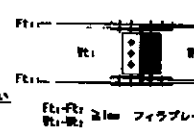
符号	部材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	B₁－径	ウエブ PL-(3)	B₂－径

（4）ハンチ部の継手

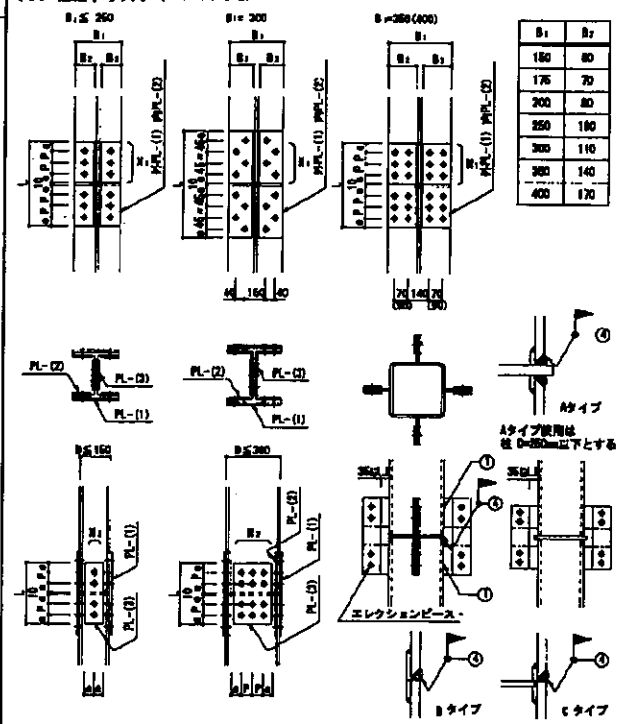


ハンチ勾配は普通1:4程度であるが強度上による
r：半径　t：板厚

フランジ及ウエブ厚の変のある場合



（5）柱継手リスト　(BCSS-1997による)



B₁	B₂
150	80
175	70
200	80
250	150
300	110
350	140
400	170

注）現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う

符号	部材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	B₁－径	ウエブ PL-(3)	B₂－径

（6）筋違ブレース　(JIS規格品とする … JIS A 5540…1982/5541・5542…2003)

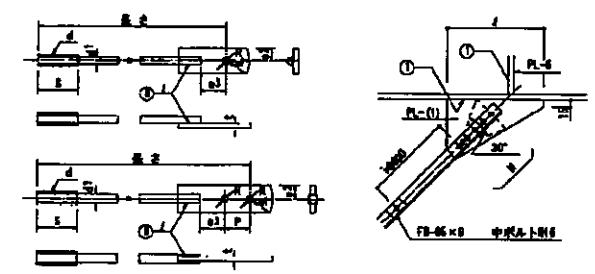
(a) 羽子板ボルト

ねじの呼び d0			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
有効 d1	最大		10.91	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最小		10.86	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ		ℓ	100	115	125	140	150	165	175
取付けボルト穴径 呼径 d0 ＋2.5mm		R	13.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき(最小)		(2) a1	35	40	45	50	50	55	60
羽板	へりあき(最小)	(1) a2	22	28	28	34	34	38	38
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき(最小)	(1) a2	19.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト縁から取付ボルト上穴までのあき(最小)		a3	47	52	59	66	66	73	70
端部長さ(最小)		ℓ	48	50	55	60	75	85	85
(2) 取付ボルト	強度		JIS B 1186 2種高力ボルト(F10T)又は JIS B 1180 中 8g 10.9						
	ねじの呼び		M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本数		1	1	1	1	1	1	2

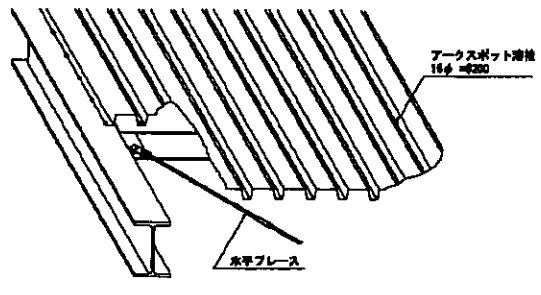
（注）(1) a1,a2が確保されれば形状は自由でよい
(2) 羽子板とガセットプレートの場合は図に示す取付けボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする

(a) 筋違ブレース

符号	部材	PL-(1)	B－径	ℓ



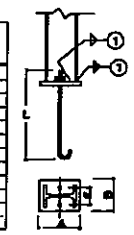
（7）デッキプレート　(床開性を有する合成床、合成梁のときは別途図参照)



（8）露出柱脚

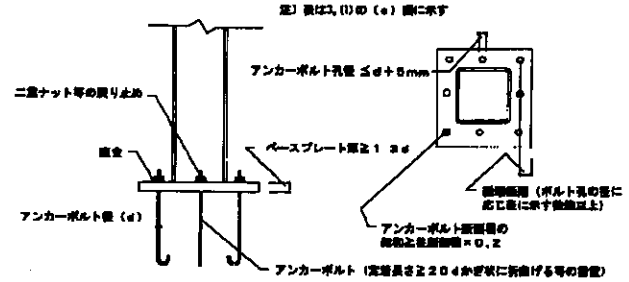
(a) H形鋼（ピン接合）

符号	部材	アンカーボルト 径	L	本数	ベースプレート 厚	A	B	g	備考
	H－125・60・6・8	M	620	2	12	185	180	100	
	H－150・75・6・7	M	620	2	12	210	180	100	
	H－175・90・5・8	M	620	2	12	235	180	100	
	H－200・100・5.5・8	M	620	2	12	260	180	100	
	H－250・125・6・9	M	620	2	16	310	180	100	
	H－148・100・6・9	M	620	2	17	310	180	100	
	H－194・150・6・9	M	730	2	16	365	200	130	
	H－192・150・8・8	M	620	2	12	160	180	100	
	H－125・125・6.5・9	M	730	2	16	185	180	100	
	H－150・150・7・10	M	730	2	16	210	200	130	



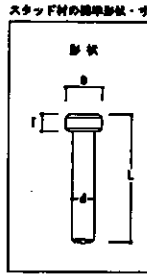
(b) 固定・半固定　(許容応力度等計算を行わない場合)

注）表は3.(1)ロ（e）欄に示す



（9）頭付きスタッド（JIS B 1198）

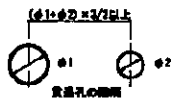
スタッド材の標準形状・寸法

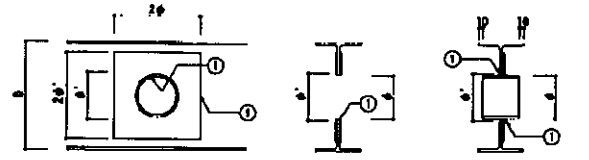


呼び名	スタッド径 軸径 d	頭径 D	頭高さ T	溶接後の長さ L
	mm	mm	mm	mm
φ13 mm	12.0 12.7	22.0 25.4	10.0 7.9	50，80，100，120
φ16 mm	16.0 16.8	28.0 31.7	10.0 7.9	80，100，120
φ19 mm	19.0 19.0	32.0 31.7	10.0 9.5	80，100，120，150
φ22 mm	22.0 22.2	35.0 34.9	10.0 9.5	100，130，150

（10）最貫通補強

・設計で補強された場合は下記の数量，寸法によらなくて良い
・開口部（スパンの 1/10以内かつ梁せい内）は通せる
・φ≦ 0.4D
・φ'は隣接開の穴径を示す





プレート補強の板厚

スリーブ径	補強板
φ≦ 0.1D	補強板不要
φ≦ 1/4	Web板厚以上（片面）
φ≦ 1/3	Web板厚1.2倍以上（片面）
φ≦ 0.4D	Web板厚以上（両面）

	設計	沖縄市体育館建設工事 ■（有）ウイング建築設計事務所　■ 建築研究室　匠斎庵 ■ GA企画設計　　共同企業体	（有）ウイング建築設計事務所 事務所登録：第196－896号 所在地：沖縄県沖縄市山内4－20－1 電話：(098) 933－8468　FAX (098) 933－8890 管理建築士：1級建築士登録 第194942号 具志堅　達　印	監理	（有）みき建築設計 事務所登録（知事）第101－946号 沖縄市美里5丁目23番10号 TEL（098）938－2208 一級建築士 第194964号 大城　直樹	工事名称 沖縄市体育館建設工事（建築工事） 工事場所 沖縄市諸見里二丁目1番1号 図面名称 鉄骨構造標準図（2）	承認年月日 . . 縮尺 1/— (A3版1/—)	図面番号 S－05